| 豊田工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和03年度 (2021年度) | 授業科目 | 現代社会学Ⅱ |
|---|---|---|---|---|

## 科目基礎情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目番号 | 04210 | 科目区分 | 一般 / 選択 |
| 授業形態 | 講義 | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 |
| 開設学科 | 環境都市工学科 | 対象学年 | 4 |
| 開設期 | 後期 | 週時間数 | 2 |
| 教科書/教材 | 教科書は特に指定せず、講義はプリントに沿っておこなう。／地図帳あるいは地図を閲覧できるツール類を持ち込むことを推奨する。国語辞典（電子辞書でも良い）を持参のこと。 | | |
| 担当教員 | 佐々木 陽平 | | |

## 到達目標

（ア）現代社会における諸問題の発生要因を理解し，説明することができる。
（イ）各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。
（ウ）各種問題への対策へ向けた人々の動向について理解し，説明することができる。

## ルーブリック

| | 到達レベルの目安（優） | 到達レベルの目安（良） | 到達レベルの目安（不可） |
|---|---|---|---|
| 現代社会における諸問題の発生要因を理解し，説明することができる。 | 現代社会における諸問題の発生要因について，因果関係を踏まえて説明できる。 | 現代社会における諸問題の発生要因について，おおまかに理解できる。 | 現代社会における諸問題の発生要因について，理解できない。 |
| 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。 | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。 | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることについて，おおまかに理解できる。 | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることについて，理解できない。 |
| 各種問題への対策へ向けた人々の動向について理解し，説明することができる。 | 各種問題への対策へ向けた人々の動向について理解し，説明することができる。 | 各種問題への対策へ向けた人々の動向について，おおまかに理解できる。 | 各種問題への対策へ向けた人々の動向について，理解できない。 |

## 学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A1 社会の変化と要請を的確に捉え、人の生活を支える社会基盤の役割をよく理解する
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

## 教育方法等

| | |
|---|---|
| 概要 | 現代社会においては，国内外を問わず様々な問題が存在する。それらを要因から分類すると，人間活動が主因もの，自然現象が主因であるもの，あるいは両者が相互に関わり合って発生する場合もある。さらにそこには地域性や歴史的事象の積み重ねも内在していることがある。そこで本講義では，現代社会の諸問題の発生要因と対策に向けた人々の動向について，当該地域の地域性や歴史的条件を踏まえながら考察を加える。 |
| 授業の進め方・方法 | プリントを配布する。<br>講義は座学のみならず，受講者が自ら地域的課題を見つけ，講義から学んだ研究視角や分析方法を用いて調査を実施し，報告・討論を行うことにする。 |
| 注意点 | 普段から各種メディアが報道する現代社会の各種問題にも関心を持ち，自ら調べたり，考えること。<br>継続的に授業の予習・復習をすること。 |

## 選択必修の種別・旧カリ科目名

## 授業の属性・履修上の区分

| | | | |
|---|---|---|---|
| ☐ アクティブラーニング | ☐ ICT 利用 | ☐ 遠隔授業対応 | ☐ 実務経験のある教員による授業 |

## 授業計画

| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 導入：現代社会の諸問題について<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 現代社会における諸問題の発生要因を理解し，説明することができる。 |
| | | 2週 | 問題事例1の要因（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 現代社会における諸問題の発生要因を理解し，説明することができる。 |
| | | 3週 | 問題事例1の要因と地域性と歴史的関係（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。 |
| | | 4週 | 問題事例1の対策<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 各種問題への対策へ向けた人々の動向について理解し，説明することができる。 |
| | | 5週 | 問題事例2の要因<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 現代社会における諸問題の発生要因を理解し，説明することができる。 |
| | | 6週 | 問題事例2の要因と地域性と歴史的関係<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。 |
| | | 7週 | 問題事例2の要因と地域性と歴史的関係<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 各種問題が地域性や歴史的条件を踏まえながら発生していることを理解し，説明することができる。 |
| | | 8週 | 問題事例2の対策<br>（配布資料の復習，自ら現代社会の諸問題について考えたり調べたりする。） | 各種問題への対策へ向けた人々の動向について理解し，説明することができる。 |
| | 4thQ | 9週 | 報告（1）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |
| | | 10週 | 報告（2）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |
| | | 11週 | 報告（3）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 12週 | 報告（4）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |
| | | 13週 | 報告（5）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |
| | | 14週 | 報告（6）（報告や議論のための準備） | 現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏まえながら説明できる。建設的な議論ができる。 |
| | | 15週 | 総括 | これまでの内容を整理し、理解を深める。<br>これまでの講義や議論の内容を適切に復習する。 |
| | | 16週 | | |

## モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 社会 | 現代社会の考察 | 現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。 | 3 | 後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| 分野横断的能力 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 複数の情報を整理・構造化できる。 | 3 | 後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 事実をもとに論理や考察を展開できる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |
| | | | | 結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。 | 3 | 後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15 |

## 評価割合

| | 定期試験 | 課題 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 総合評価割合 | 70 | 30 | 100 |
| 基礎的能力 | 70 | 30 | 100 |